

第 12 回グローバルヤングアカデミー総会兼学会 開催結果報告

1 開催概要

- (1) 会議名 : (和文) 第 12 回グローバルヤングアカデミー総会兼学会
(英文) 2022 International Conference of Young Scientists
- (2) 報告者 : 日本学術会議若手アカデミー GYA 総会 国内組織分科会
国内組織委員長 新福洋子
- (3) 主催 : グローバルヤングアカデミー (GYA)、日本学術会議
- (4) 開催期間 : 2022 年 6 月 12 日 (日) ~17 日 (金)
- (5) 開催場所 : 九州大学伊都キャンパス椎木講堂、福岡市科学館 (福岡県福岡市)
※一部オンライン開催
- (6) 参加状況 : 77 カ国・地域 791 人

2 会議結果概要

- (1) 会議の背景(歴史)、日本開催の経緯 :

Global Young Academy (以下 GYA) は、「Give a voice to young scientists. (若手科学者に声を与える)」をミッションに活動する、全世界 200 名の分野を超えた若手科学者の集団である。2010 年の発足から学際的な議論と活動を続け、世界中の若手アカデミーからの承認を受け、ブタペスト宣言から 20 周年の World Science Forum 2019 にて“Declaration on the Guiding Principles of Young Academies”を発表し、科学者の醸成の場としての若手アカデミーのあり方を示した。若手アカデミー活動は、学際的な議論を日常的に行うことで、「学術的未知」と「社会課題としての未解決」を乖離させずに、科学者にとって本当に大切なものは何か、「根幹 Integrity」を育てる土壌になる。異なる立場の意見を聞くこと、また自らの立場や根拠を説明することで、その科学の重要性を「伝搬 Communication」する能力を強める。そして、異なる分野との重なりを見つけ「発展 Innovation」につなげることができる。結果、目的にあるような社会と科学者の関係性を問い直し、科学の未来を構築していく礎となる。

日本においても GYA の発足時より、日本学術会議若手アカデミー及びその前身組織という形で、継続してメンバーに選出されてきた (現役メンバー、アルムナイ含め 11 名)。執行役員には歴代駒井章治、狩野光伸、新福洋子が選出された。日本での総会兼学会の開催は発足当時から打診を受けてきたが、今回十分な協力者と共に開催する目処が立ち、総会兼学会招致に至り、正式に日本開催が決定した。

- (2) 会議開催の意義・成果 :

現代社会における科学・技術・イノベーションの発展はめざましく、その連関性は重要性が増すばかりである。昨今は、新技術を社会において使うだけにとどまらず、研究の社会実装、政策提言や社会へのアウトリーチなど、多くの科学・技術・研究者の多彩な役割が求められる。一方で、現象解明のためのプロジェクトの大型化や科学の職業化、諸外国との

知的生産の競争激化等に伴い、研究活動のためのリソースの多くを社会に頼ることとなり、科学と社会の相互補完関係はますます強くなっている。

このようなこれまでの科学の歴史を踏まえ、本会議では科学の変動期にいる若手科学者が世界中から集結させ、21.5世紀の科学者が追求するものは何かを議論する機会を提供できたことは意義深い。この問いは、科学者は何を追求すべきかという観念的な視点からのみではなく、パトロンという側面もある社会との関係性、例えばオープンサイエンスの活発化、シチズンサイエンスの台頭などに表れている、科学や研究のプレイヤーの今日的变化、包摂性と持続性を目指した、科学のあり方といった文脈から問われるものである。本会議では、これらを具体的なテーマとして議論する機会となり、さらに科学者とは何かを科学者自身に問い直す貴重な機会ともなった。また、(合) 理性や客観性と相対し、人間社会を豊かにしてきた主観的な経験、感性、情緒を、排除した学問と、これらを取り入れてきた学問の、両学問での科学者間での価値観の調和とリバランスを試みるこれまでにない機会となった。以上に挙げた問いは、社会から見た立場としても重要であり、経済を含めた社会、特に昨今重要となっている知識基盤社会の醸成についての問いとも捉えられる。そのため、政策立案者も含めて科学的助言のあり方を議論する機会も設けることができ、意義深かったといえる。全体を通じ、これからの「知」や「創造性」のあり方、高等教育のあり方、科学者と市民社会の関係、などを若い世代を中心に議論する稀有な機会となった。

実際の議論は、プレナリーセッションに加えてパネルセッション、ワークショップとして実施され、双方向性高く議論ができるように配慮した。特に、参加者が科学的助言について学び、議論するワークショップも設け、今後、アカデミーが担う役割を若い世代に理解してもらう場も設けた。

以上の議論の成果を閉会式にてサマリとして報告するとともに、ショートムービーや漫画として可視化させた。また、社会に広く周知することを狙い、議論の成果をブラッシュアップしてまとめた「Fukuoka Declaration on Actions to Change the Relationship between Society and Science ~ Harmonising Reason with Sensibility for an Inclusive and Sustainable Future」をステートメントとして準備し、GYAからの発出に向けて最終準備に入っている。今後、これら成果物の普及を進めるとともに、さらに議論を深化させていく予定である。

(3) 当会議における主な議題 (テーマ) :

日本発のポスト SDG's 時代の科学的ビジョンとして「感性と理性のリバランス：包括性と持続性に向けた科学の再生」をテーマに議論した。

(4) 当会議の主な成果(結果)、日本が果たした役割 :

ポスト SDG's 時代の世界を作っていくための科学と社会の関係について、若手科学者を中心に、幅広い世代、異なる立場の方々との議論を通じて共通の見解を導き出し、「Fukuoka Declaration on Actions to Change the Relationship between Society and Science ~ Harmonising Reason with Sensibility for an Inclusive and Sustainable Future」なるステートメントとしてまとめ、発出に向けて準備している。

SDGs が社会に普及し、SDGs の次の時代を前提としていく中、STI for SDGs の機会などで若手科学者が世界的な科学の変革を発信する場が求められている中で、日本はその旗振り役を果たすことができた。また、会議テーマに適した開催地を選定し、ステートメントの発出をリードする役割を果たした。

(5) 次回会議への動き :

2023年6月 キガリ (ルワンダ)

テーマ : Technological Innovations for Discovering Solutions to the World's Greatest Current Challenges

(6) 当会議開催中の模様 :

報告書 (別添) 参照

(7) その他特筆すべき事項 :

新型コロナウイルス感染症の拡大によって、開催時期の変更や開催方法（ハイブリッド）の変更を余儀なくされたが、最大限の成果につなげるため、日本の高校生、大学院生や研究者を多く巻き込み、過去最大の参加者数を達成した。特に高校生をターゲットとした市民公開講座（3.に記載）、および、次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）の博士大学院生を巻き込んだサイドイベントを充実させ、開催地の九州大学のみならず、オンラインにて全国の大学院生が参加・交流できるコンテンツを用意し、国内への会議の趣旨・成果の波及に努めた。なお、サイドイベントのうちの一つは環境学委員会環境科学分科会と共催した。また、社会へのアウトリーチの文脈で、アートとのコラボレーションも試みた。開会式では音楽（歌）と映像のパフォーマンスを行った。また、開会式会場となった九州大学椎木講堂のギャラリーには、その広い空間を活用した大規模作品を会期中に展示した。さらに、会議の趣旨を幾年にも渡って語り継いでもらうことを期待して花壇と一体化したモニュメントを制作し、九州大学伊都キャンパス内に形として残した。

3 市民公開講座結果概要

(1) 開催日時：2022年6月12日(日) 13:30-17:00

(2) 開催場所：福岡市科学館 6F サイエンスホール

(3) 主なテーマ、サブテーマ：

「創造する未来と科学の可能性 -さまざまな科学のつなぎ方を創造しよう-」

(参考 URL) <https://www.fukuokacity-kagakukan.jp/news/2022/05/612-1.html>

(4) 参加者数、参加者の構成：51名

(5) 開催の意義：

高校生を対象に、点数取得型の勉強とは異なる目線の必要性を感じてもらい、大学以降での学びの意欲を高めてもらうことを狙って、(3)にあげたテーマのもとで、様々な分野の専門家（大学教員）と交流しながら結論を導き出し、自らのアイデアに基づいた表現に昇華させるという分野横断型のグループ型ワークショップを企画した。これを通じ、異なる角度のものの見方、立場の異なる相手を受け入れ共創していく感覚、それらを表現していくセンスを身につけてもらうことを狙った。

(6) 社会に対する還元効果とその成果：

参加した高校生にとって、単一の専門性だけでなく多角的な視点を持つことが重要であるとの意識を芽生えさせる有効な機会となった。また、不確定要素の大きい未来を前向きにとらえ、自ら創造することを考えていく上で、現時点で確定した内容を体系化したものである「科学」や「知」が有効であること、また、それらを有機的につなげた学際的な学びが楽しいものであることを伝えることができた。さらに、グループでの学習・議論の楽しさを伝えるとともに、それを皆で形にして表現し、クリエイティブなアウトプットを出していく機会を提供することができた。参加者が大学に入学し、新たな大学の活用法を開拓し、新たな学問の世界を切り開いてくれることを願ってやまない。

開催に当たり工夫した点は主に次の(7)に記載したが、今回の国際会議のテーマや理念がなければ、以下であげた多数の研究者の協力は得られなかったことを強調しておく。これら幅広い分野の研究者の協力者を得て、次世代を担う人材（＝高校生）の育成に向けて一丸となれたことも一つの成果であり、社会還元であったと考えている。

(7) その他：

当日の進行は以下の通りであった。5つの分野（宇宙、環境、生命、生活、人間）でグループにわかれ、それぞれに専門家を招き、同時にメンターを配置した（いずれも現役の大学教員、下記の協力者リスト参照）。1グループあたりの高校生は5-7名程度とした。前半は、グループ内で事前調査課題の成果を報告し、互いに議論するパートを経て、グループ間で中間報告をおこなった。それを受けて後半、未来に向けた提案をそれぞれのグループで行い、

参加者それぞれの個性をいかしつつ、大きなポスターを作成し、発表しあつた。参加者のクリエイティビティを表現として引き出す点については、特に、デザインの専門家である平井教授（九州大学）に協力をいただき、他の協力者とともに入念な事前準備を行うことで実施に至ることができた。運営上反省すべき点はあつたが、参加者の満足度は高かつたと思われる。

（実施協力者一覧）

宇宙

専門家：坂東 麻衣氏 九州大学工学研究院 航空宇宙工学部門

メンター：小林 良彦氏 大分大学 教育学部

環境

専門家：津田 みどり氏 九州大学農学研究院 資源生物科学部門

メンター：朝廣 和夫氏 芸術工学研究院 環境設計部門

生活

専門家：柴田 智広氏 九州工業大学大学院 生命体工学研究科人間知能システム工学専攻

メンター：吉田 香氏 九州工業大学 生命体工学研究科 人間知能システム工学専攻

生命

専門家：比良松 道一氏 九州大学 持続可能な社会のための決断科学センター

メンター：高田 美子氏 九州大学 生物資源環境科学府環境農学専攻

人間

専門家：錢 琨氏 九州大学 アジア・オセアニア研究教育機構 研究推進部門

メンター：白新田 佳代子氏 福岡女子大学 国際文理学部 国際教養学科

クリエイティブ

コンテンツデザイン/全体アドバイザー：平井 康之氏 九州大学大学院 芸術工学研究院

その他

全体アドバイザー：矢原 徹一氏（福岡市科学館館長、九州オープンユニバーシティ理事、九州大学名誉教授）

実施協力：福岡市科学館スタッフの皆様

4 日本学術会議との共同主催の意義・成果

多様な分野・立場で活躍する日本学術会議の会員・連携会員を起点とする国内外の卓越した科学者・その他のステークホルダーとのネットワークを活用して登壇者・参加者・協力者を集めることができた。これは、分野横断的連携、多様な主体の連携が議論の前提であった本学会としては大変意義深く、会議内容の質向上に大いに貢献したと言える。

また、結果的に中止になってしまったが、開会式挨拶に合わせて行っていただく予定であった梶田会長による特別講演が実施されていたら、学生を含む若手科学者にとって大きな刺激になっていたと思われる。

第12回グローバルヤングアカデミー 学会兼総会



【報告書】

2022. 7. 1

<主催>

Global Young Academy
日本学術会議若手アカデミー



GLOBAL
YOUNG
ACADEMY



1. 開催概要

1. 会議の名称

和文：第12回グローバルヤングアカデミー総会兼学会

英文：第12回Global Young Academy Annual General Meeting and Conference

2. テーマ

Harmonizing Reason with Sensibility:

Regenerating science for an inclusive and sustainable future

感性と理性のリバランス：包括性と持続性に向けた科学の再生

3. 主催団体

グローバルヤングアカデミー（Global Young Academy）、日本学術会議若手アカデミー

4. 組織委員長

新福 洋子（広島大学 教授）

5. 共催・協賛・後援

共催：九州大学、公益財団法人 日本学術協力財団 原田弘二基金

協賛：日本政府観光局

後援：外務省、文部科学省、独立行政法人 国際協力機構 (JICA)、公益社団法人

日本看護科学学会、一般社団法人 日本生態学会、公益社団法人 日本化学会、

公益社団法人 高分子学会、筑波会議委員会、日本科学振興協会(JAAS)、

一般社団法人 日本DNA多型学会、公益社団法人 日本心理学会、日本ベントス学会

※本会議は、一部、JST「世界で活躍できる研究者育成プログラム総合支援事業」の支援を受けて実施いたしました。

6. 会期

2022年6月12日（日）～17日（金）【6日間】

7. 会場 *ハイブリッド開催（一部オンライン開催のみ）

九州大学伊都キャンパス（椎木講堂）

〒819-0395 福岡市西区元岡744

福岡市科学館

〒810-0044福岡県福岡市中央区六本松4丁目2-1

8. 参加者数

のべ 791名

9. 事務局

〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34 日本学術会議内

日本学術会議若手アカデミー GYA 総会国内組織分科会

10. 運営事務局

〒819-0014 福岡市西区豊浜 2-21-8

合同会社オフィスビーワン

Email: gya2022-support@officebeone.com

2. プログラム

1. 日程表

2022年6月2日時点

(JST)	Day 1 6月12日 (日)	Day 2 6月13日 (月)	Day 3 6月14日 (火)	Day 4 6月15日 (水)	Day 5 6月16日 (木)	Day 6 6月17日 (金)	(JST)		
10:00							10:00		
10:30							10:30		
11:00							11:00		
11:30							11:30		
12:00							12:00		
12:30							12:30		
13:00							13:00		
13:30							13:30		
14:00	市民公開講座 「創造する未来と科学の可能性 -さまざまな科学のつなぎ方を創造しよう-」 (福岡市科学館)		サイドイベント 「高校生・大学生・次世代研究者による英語ディベートワークショップ」 (九州大学 椎木講堂・講義室)	サイドイベント 「若手世代で考える30年後の社会：SFプロトタイプングワークショップ」 (オンライン)	サイドイベント 「若手研究者と次世代研究者の対話」 (九州大学 椎木講堂・大会議室)		14:00		
14:30									14:30
15:00									15:00
15:30									15:30
16:00							16:00		
16:30							16:30		
17:00							17:00		
17:30							17:30		
18:00	科学的助言ワークショップ	開会式 GYAの紹介	パネルディスカッション シーズンサイエンスを促進する社会システムの構築を目指して	ワークショップ 自らの感性を引き出し、クリエイティビティを体感する	開会式 宣言		18:00		
18:30				休憩	休憩	休憩		18:30	
19:00				プレナリーセッション 1 社会の中の大学：持続的に包括性のある社会を実現するための公共プラットフォームとしてのあり方	プレナリーセッション 2 科学者の社会への貢献に向け、感性と理性の調和を再考する	GYA Internal Networking Session General Assembly for all (closed)		19:00	
19:30							19:30		
20:00							20:00		
20:30							20:30		
21:00		Welcome, Inauguration of New Members (closed)					21:00		
21:30			GYA Internal Networking Session (closed)	GYA Internal Networking Session (closed)	GYA Internal Networking Session General Assembly for all (closed)		21:30		
22:00							22:00		
22:30							22:30		
23:00							23:00		

※緑枠：GYAメンバーのみ対象

2. プログラム

2. メインプログラム

日時	プログラム	会場
6月13日(月) 17:00-20:00	科学的助言ワークショップ 「政策策定における科学的助言」	オンラインのみ
6月14日(火) 17:00-19:00 19:00-19:30	開会式 GYA のご紹介	椎木講堂コンサートホール (ハイブリッド)
6月15日(水) 17:00-18:30 19:00-20:30	パネルディスカッション 「シチズンサイエンスを促進する社会システムの構築を目指して」 プレナリーセッション 1 「社会の中の大学：持続的で包括性のある社会を実現するための公共プラットフォームとしてのあり方」	オンラインのみ
6月16日(木) 17:00-18:30 19:00-20:30	ワークショップ 「自らの感性を引き出し、クリエイティビティを体感する」 プレナリーセッション 2 「科学者の社会への貢献に向け、感性と理性の調和を再考する」	オンラインのみ
6月17日(金) 17:00-18:30	閉会式	オンラインのみ

3. メインプログラムの参加者数

日付	プログラム セッション名	参加者数（名）	
		オンライン	会場
6月13日(月)	科学的助言ワークショップ	62	
6月14日(火)	開会式	152	15
6月15日(水)	パネルディスカッション	108	
6月15日(水)	プレナリーセッション 1	91	
6月16日(木)	ワークショップ	41	
6月16日(木)	プレナリーセッション 2	84	
6月17日(金)	閉会式	65	

2. プログラム

4. 市民公開講座・サイドイベント

日時	プログラム	会場
6月12日(日) 13:30-17:00	市民公開講座 「創造する未来と科学の可能性—さまざまな科学のつなぎ方を創造しよう—」	福岡市科学館 サイエンスホール
6月14日(火) 10:20-15:45	サイドイベント 「高校生・大学生・次世代研究者による英語ディベートワークショップ」	椎木講堂 講義室
6月15日(水) 12:30-16:00	サイドイベント 「若手世代で考える30年後の社会：SF プロトタイピングワークショップ」	オンラインのみ
6月16日(木) 13:00-16:00	サイドイベント 「若手研究者と次世代研究者の対話」	椎木講堂 大会議室

5. 市民公開講座・サイドイベントの参加者数

日付	プログラム セッション名	参加者数（名）	
		オンライン	会場
6月12日(日)	市民公開講座		51
6月14日(火)	英語ディベートワークショップ	7	53
6月15日(水)	SFプロトタイピングワークショップ	40	
6月16日(木)	若手研究者と次世代研究者の対話	2	20

6. アートプロジェクト

「植物の一年時計」

「共存・共生への祈り」

「0=1 -Discontinuous Continuity」

3. 各プログラムの詳細

1. メインプログラム

(1) 科学的助言ワークショップ「政策策定における科学的助言」

日時：6月13日(月) 17:00-20:00

会場：オンライン

内容：科学的助言は、世界規模のパンデミックの経験により、よりその複雑性が顕著になっている。本ワークショップでは、科学アドバイザーとしての経験や、科学的助言に深い知見を持つメンターと共に、参加者が科学的助言の困難やリスク、また可能性や未来の方向性について議論した。

動画出演：Rémi Quirion

メンター：Yuval Vurgan、有本 建男、狩野 光伸、Binyam Sisay Mendisu、Markus J. Prutsch、黒田 玲子、

モデレーター：新福 洋子、Alma Cristal HM

閉会挨拶：河野 俊行

<開催の様子>



(2) 開会式・GYA のご紹介

日時：6月14日(火) 17:00-19:30

会場：椎木講堂コンサートホール（ハイブリッド）

内容：主催者・共催者からのご挨拶、内閣総理大臣からのメッセージ披露
アートイベント（歌と映像のパフォーマンス、アート作品紹介）
GYA の紹介

<開催の様子>



3. 各プログラムの詳細

(3) パネルディスカッション「シチズンサイエンスを促進する社会システムの構築を目指して」

日時：6月15日(水) 17:00-18:30

会場：オンライン

内容：シチズンサイエンスは一般の市民によって行われる科学的活動であり、世界的に拡大しつつある。しかし、わが国では、研究者が国民や政策形成者等と共に研究計画を策定し、研究実施や成果普及を進めるような方法論の創出と環境整備を促進する社会システムの構築は途上である。若手アカデミーでは、海外と比較したシチズンサイエンスの国内の現況を把握し、その実践にあたり解決すべき課題を提言としてまとめるに至った。

本プログラムでは、若手アカデミーが2020年に発出した提言やそれを受けての日本国内の動向について紹介するとともに、提言を受けて福岡大学に設立された「シチズンサイエンス研究センター」のユニークな取り組みを紹介した。さらに海外で行われている事例として、特にSDGsの達成に向けてのシチズンサイエンスの意義や課題について話題提供してもらった。これらを通じ、様々な場面で科学が社会をサポートできる装置としてのシチズンサイエンスについて深掘りするとともに、その促進に向けた社会システムの構築について議論を行った。

登壇者：岸村 顕広、Lisette Lorenz、大上 麻海、中村 征樹、乗竹 亮治

<開催の様子>



(4) プレナリーセッション 1「社会の中の大学：持続的で包括性のある社会を実現するための公共プラットフォームとしてのあり方」

日時：6月15日(水) 19:00-20:30

会場：オンライン

内容：日々進化する学術を社会に強く結びつける公共の場は、大学をおいてほかにない。本プレナリーセッションでは、「理性」と「感性」のリバランスを常にアップデートしながら考え、市民とつながる場としての大学のあり方について考えた。特に、対話を通じて学術と社会のつながりを強めることをテーマに日本学術会議会長を務められた山極壽一氏、対話を通じた教育や芸術・文化と地域を結びつける大学の学長をする平田オリザ氏にご講演いただくとともに、地域環境の持続性・地域への包摂性に配慮して設計された九大伊都キャンパスの事例の話題提供を通じ、SDGs、ポスト SDGs 時代に求められる学術のあり方、大学の役割について議論した。

登壇者：山極 寿一、平田 オリザ、坂井 猛、Connie Nshemereirwe、Michael Saliba
モデレーター：Anindita Bhadra

<開催の様子>



3. 各プログラムの詳細

(5) ワークショップ「自らの感性を引き出し、クリエイティビティを体感する」

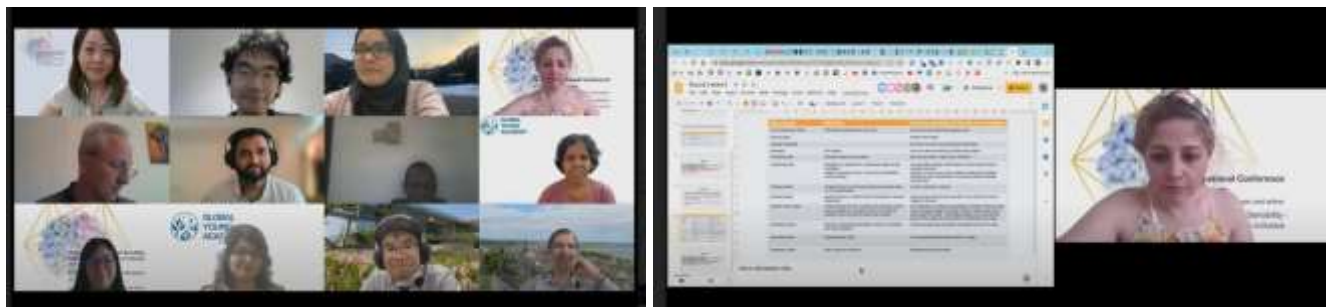
日時：6月16日(木) 17:00-18:30

会場：オンライン

内容：研究者にとって必要な創造性をアップデートするため、SFプロトタイピングの手法を用いて、参加者に潜在する感性を引き出し、小グループの交流でクリエイティビティを体感した。結果、全体のテーマである「感性と理性のリバランス」の意味合いについて、直感的に理解することを目的とした。この後のプレナリーセッション2で「感性と理性のリバランス」を分析的、論理的に議論するため、その前に感性を呼び覚ましておくことを二次的な目的とした。

モデレーター：宮本 道人、新福 洋子

<開催の様子>



(6) プレナリーセッション 2 「科学者の社会への貢献に向け、感性と理性の調和を再考する」

日時：6月16日(木) 19:00-20:30

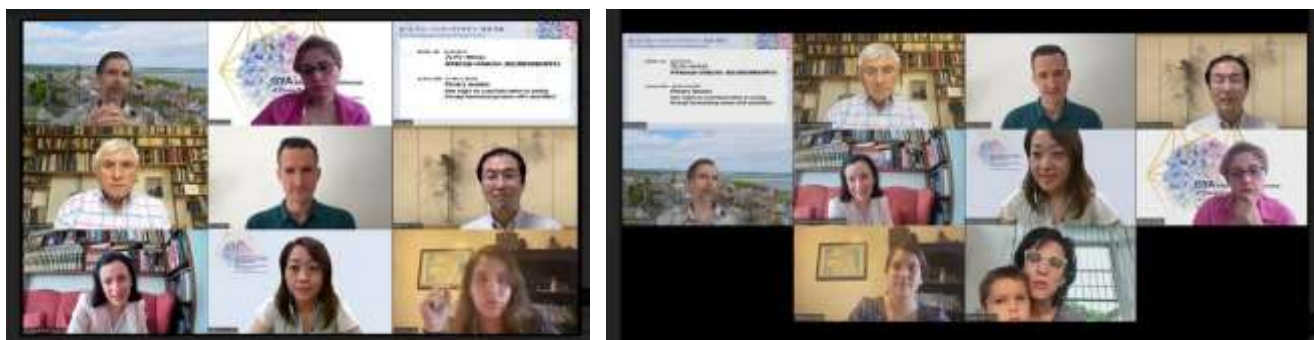
会場：オンライン

内容：科学者は社会にどう認知されているのか?国によって、分野によってどのように異なるのか?どのように科学者はより社会に貢献できるのか?これらの問いに対し、本プレナリーセッションでは、GYAメンバーとアルムナイに対する調査の一次分析結果を示した。それを元に、分野の異なる登壇者の話題提供を踏まえ、会場からのコメントと質問を受けながら、議論を展開した。GYAのFocus Areaとして重ねてきた議論を、幅広い参加者に周知すると共に、一緒に考える時間となった。

登壇者：Dennis Sherwood、Sandra Lopez、Cristina Blanco Sío-López、狩野 光伸、Rob Jenkins、

モデレーター：新福 洋子

<開催の様子>



3. 各プログラムの詳細

(7) 閉会式

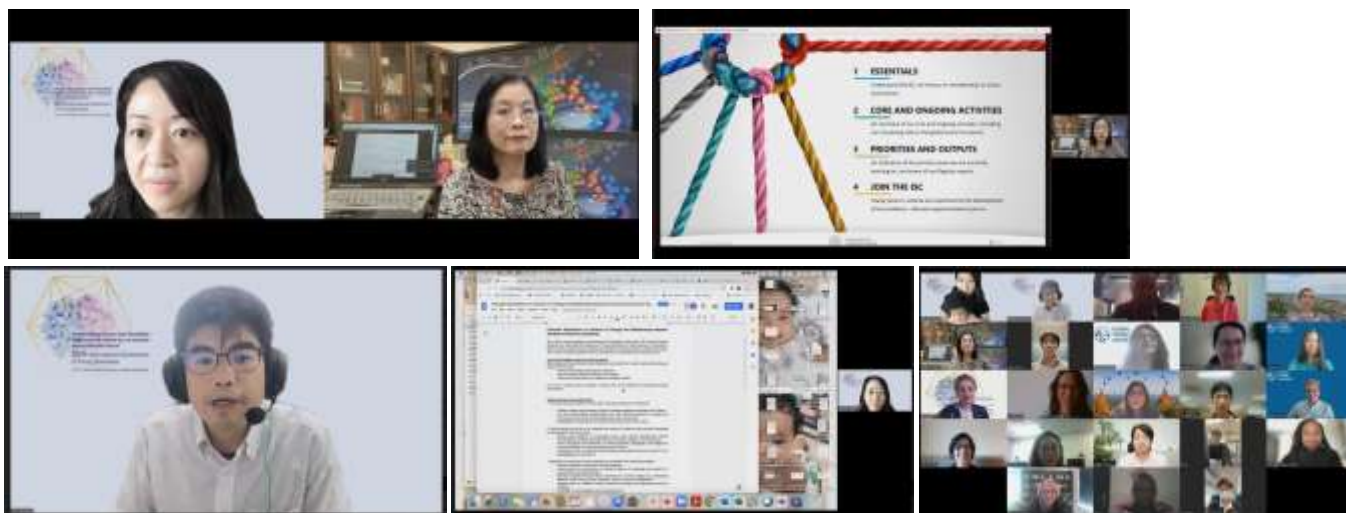
日時：6月17日(金) 17:00-18:30

会場：オンライン

内容：ダイジェスト映像配信、国際学術会議の紹介、各セッションからの報告、宣言案の公表、意見交換、まとめ

登壇者：小谷 元子（国際学術会議 (ISC)次期会長）、新福 洋子、岸村 顕広

<開催の様子>



～ダイジェストムービー（2分）～

会期中のスナップ写真や映像からダイジェストムービーを制作。



3. 各プログラムの詳細

2. 市民公開講座・サイドプログラム

(1) 市民公開講座「創造する未来と科学の可能性 -さまざまな科学のつなぎ方を創造しよう-

日時：6月12日(日) 13:30-17:00

会場：福岡市科学館 6F サイエンスホール

内容：高校生を対象に、点数取得型の勉強とは異なる目線の必要性を感じてもらい、単一の専門性だけでなくリベラルアーツも含め、多角的な視点を持つことの意識を芽生えさせ、学びの楽しさを伝えるワークショップを行った。

<開催の様子>



(2) サイドイベント「高校生・大学生・次世代研究者による英語ディベートワークショップ」

日時：6月14日(火) 10:20-15:45

会場：九州大学伊都キャンパス椎木講堂・講義室

内容：最近話題となることが多いトピックとして「環境」「ヴァーチャル・リアリティ (VR)」「医療」「国際関係」「オープンサイエンス」「SDGs」を取り上げ、高校生・大学生・大学院生により、すぐに決着のつかない生のトピックについて英語ディベートを行った。

高校生 8名 (福岡、神戸の高校生)、九州大学の学生 20名が参加し、午前は5グループに分かれてディベートを行い、午後は午前の活躍に基づき選ばれた6名によりディベートを行い、優勝チームとBest Speakerを表彰した。また、参加者全員にCertificateを配布した。

ゲストスピーカー：

環境：森 章 (東京大学先端科学技術研究センター 教授)

VR：南澤 孝太 (慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科 教授)

医療：狩野 光伸 (岡山大学副理事・学術研究院ヘルスシステム統合科学学域 教授)

国際政治：中野 涼子 (金沢大学人間社会学域 教授)

オープンサイエンス：Anders Karlsson (Vice President, Global Strategic Networks, Asia Pacific, Elsevier)

SDGs：Jinhee Kim (Korean Educational Development Institute)

総括コメント：中野 美香 (福岡工業大学教養力育成センター 教授)

閉会挨拶：河野 俊行 (九州大学理事・副学長)

<開催の様子>



3. 各プログラムの詳細

(3) サイドイベント「若手世代で考える30年後の社会：SFプロトタイピングワークショップ」

日時：6月15日(水) 12:30-16:00

会場：オンライン

内容：九州大学ほか全国の次世代研究者挑戦的研究プログラムの博士課程大学院生を中心に、特定の技術などが進化した未来社会を想像しつつ、学術と密接に関わる「30年後の大学」についてのストーリーをともに考え、現代にも通じる課題や社会や学術の新たな方向性を見出すことを目的とするワークショップを行った。

全体コーディネーター：宮本 道人

<開催の様子>



(4) サイドイベント「若手研究者と次世代研究者の対話」

日時：6月16日(木) 13:00-16:00

会場：九州大学伊都キャンパス椎木講堂・大会議室

内容：よりよい未来を意図的に創造していくためには、分野の壁を越えたつながりだけでなく、時間を越えた世代間のつながりも重要であることを次世代研究者たちに認識してもらうための議論を行った。特に、今回の国際会議の大会テーマでもある頭（理性）で理解することと心（感性）で理解することのバランスを意識し、「理性」や「科学」で伝えることの限界や、その限界を補完しうる表現手段としての「芸術」の可能性に焦点を当て、5名程度のグループにわかれて議論を行った。

話題提供者：

栗山 斉（九州大学大学院芸術工学研究院未来共生デザイン部門准教授） [科学と芸術]

安田 仁奈（東京大学大学院農学生命科学研究科教授） [環境と科学・社会・芸術]

和田 元（同志社大学理工学部電気工学科教授） [原子核工学と社会]

八並 廉 九州大学大学院法学研究院国際関係法学部門准教授 [文化遺産とメタバース]

<開催の様子>



4. アートプロジェクト

今回の大会テーマ「感性と理性のリバランス」の実践の一つとして、アートとサイエンスのコラボレーションに取り組んだ。

将来世代へのメッセージを今後永きに渡って残る形にした作品、一瞬の輝きを芸術表現に昇華させた作品、大会テーマに寄り添い「共存・共生への祈り」を含めた楽曲・映像作品をアーティストの方々に制作いただいた。以下にその内容とアーティストについて紹介する。

なお、本アートプロジェクトは、GYA のワーキンググループ Science + Art = Peace and Justice を主体として進めた。

(1) 植物の一年時計

作品説明：植物が1年にわたり順に開花するようデザインされたアートガーデン。GYA総会開催にあわせて、九州大学（伊都キャンパスビックオレンジ前）に制作した。九州北部豪雨災害(2017年)の復興支援として「黒川復興ガーデン」を制作したことから発想を得た。このアートガーデンは、九州大学にある「生物多様性保全ゾーン」に自生する在来種を中心に植栽されている。また、方角を明記し、日の出入り、北極星の位置など、星々と自分のつながりを感じるように設計されている。このガーデンは、修験道の曼荼羅のオマージュであり、大いなる関係性の中で私たちが生かされていることを表現している。人々の心の中に、自然の循環や時間への想像力を喚起し、現在の植生を将来世代に伝えるものである。

作品制作：知足 美加子（九州大学大学院芸術工学研究院 教授）

植物監修：矢原 徹一（九州オープンユニバーシティ 理事）

造園：宗像緑地建設株式会社

動画制作：九州大学知足研究室（渡邊 慧大、濱田 輝、
内藤 真星、依田 拓海、於保 杏咲、伊藤 連胆）

協力：英彦山神宮、曹洞宗万歳山 龍国寺



知足 美加子
九州大学大学院芸術工学研究院
教授

<作品>



4. アートプロジェクト

(2) 共存・共生への祈り

作品説明：人々や他の生物との共生・共存をテーマにした、日本の音楽家、SeireN とロシアのメディアアーティスト Vlad Kononkov による映像のコラボレーション作品である。

作品に関するメッセージ：

1曲目 [オレンジが沈む頃に] by spla

3年前に急に空へ旅立った友達が「夕方の夕日ってなんか寂しいよね」と言った私に「また明日ねの色だよ。だから寂しくないんだよ」と生前私にくれた言葉を思い出し泣きながら書いた曲です。人という儚い存在、そこから生まれる言葉。当たり前の日々が大切に尊い。そんなことを思いながら書いた曲です。

2曲目 [Still ～ それでも] by daich

イントロ冒頭の銃声をイメージした後にもあるように、差別や暴力に対する訴えや平和に対する願いを込めています。今回は海洋に関するテーマではありますが、海洋生物も含め、人の手によって失われるものへの悲しみも含みます。歌詞では深海を絶望に例えて、そこに光をさすには自分で考え続けなければならない、自分がどんな状況であってもそれでも進もうというメッセージとなっています。

映像作品 by Vlad Kononkov

今回の SeireN とのコラボレーションで、この世界における人間の位置づけや、人と他の生物との関係性について深く考えることの一助になっていただけたらと思っている。私たちは常に振り返り、私たちの存在について考えることによるのみ、私たちは古い過ちを避け、この地球上で共に生きる他のすべての存在を尊重することができる。たとえ距離や国境によって分断されていても、私たちは音楽、映像、感情を通してつながり、協力することができる。

SeireN

メロディを重視した感情的な楽曲に、レンジの広い力強かつ繊細な歌声が加わることでより響く作品を目指した、vocal : spla とクリエイター : daich で結成したユニット。



spla
作詞・作曲・ボーカル



daich
作詞・作曲・編曲

Vlad Kononkov

ロシアのウラジオストク出身のメディアアーティスト。テクノロジー・アート、メディア・アート、サウンド・アートの分野で、グループおよび個人のプロジェクトに取り組んでいる。彼の作品における環境問題への関心や、海洋哺乳類の生態への探求は、ジェネレーティブグラフィックスやサウンド体験へと融合されている。



Vlad Kononkov
メディアアーティスト

4. アートプロジェクト

(3) 0=1 -Discontinuous Continuity

素材名：閃光電球、鏡、アルミニウム、鉄、電子部品など。

作品説明：99個の閃光電球が不規則なタイミングで一回きりの発光を繰り返す。これにより非連続の連続、「消滅」と「生成」を両義的に暗示する唯一無二の繰り返し、一回性の繰り返しを表現する。

作品制作：栗山 斉（九州大学大学院芸術工学研究院未来共生デザイン部門 准教授）



<作品>

0=1 -Discontinuous Continuity



photo by Hikaru Hamada

5. 登壇者リスト

▼ 科学的助言ワークショップ -政策策定における科学的助言-

動画出演 Rémi Quirion	President, INGSA
メンター Yuval Vurgan	Professor, The Knesset Research and Information Center
有本 建男	政策研究大学院大学 客員教授
狩野 光伸	岡山大学 副理事・教授
Binyam Sisay Mendisu	Vice President, INGSA
Markus J. Prutsch	PD, Doctor, European Parliament
黒田 玲子	INGSA-Asia 理事、中部大学先端研究センター 特任教授
モデレーター 新福 洋子	広島大学 副学長・教授
Alma Cristal HM	Visiting professor, Center for Research and Advanced Studies of the National Polytechnic Institute (CINVESTAV)
まとめ 河野 俊行	九州大学 理事・副学長

▼ パネルディスカッション -シチズンサイエンスを促進する社会システムの構築を目指して-

スピーカー 岸村 顕広	九州大学 総長補佐・大学院工学研究院 准教授
Lisette Lorenz	PhD candidate, Cornell University
大上 麻海	福岡大学商学部 講師 (シチズンサイエンス研究センター メンバー)
中村 征樹	大阪大学大学院文学研究科 教授
兼竹 亮治	日本医療政策機構 理事/事務局長・CEO

▼ プレナリーセッション 1 -社会の中の大学：持続的で包括性のある社会を実現するための公共プラットフォームとしてのあり方-

スピーカー 山極 壽一	総合地球環境学研究所 所長
平田 オリザ	芸術文化観光専門職大学 学長 [ビデオメッセージ]
坂井 猛	九州大学人間環境学府キャンパス計画室 教授・副室長
Connie Nshemereirwe	Past Co-Chair, Global Young Academy
Michael Saliba	Professor, University of Stuttgart, Germany / Co-chair, Global Young Academy
モデレーター Anindita Bhadra	Associate Professor, Department of Biological Sciences, Indian Institute of Science Education and Research Kolkata, India

▼ ワークショップ -自らの感性を引き出し、クリエイティビティを体感する-

モデレーター 宮本 道人	東京大学大学院 新領域創成科学研究科 客員連携研究員、筑波大学システム情報系研究員
新福 洋子	広島大学 副学長・教授

▼ プレナリーセッション 2 -科学者の社会への貢献に向け、感性と理性の調和を再考する-

スピーカー Dennis Sherwood, ,	The Silver Bullet Machine Manufacturing Company Limited
Sandra Lopez Verges	Senior Researcher, Department of Research in Virology and Biotechnology, Gorgas Memorial Institute for Health Studies
Cristina Blanco Sío-López	Marie Skłodowska-Curie Senior Global Fellow, Ca' Foscari University of Venice
狩野 光伸	岡山大学 副理事・教授
Rob Jenkins	Professor, Department of Psychology, University of York
モデレーター 新福 洋子	広島大学 副学長・教授

▼ 閉会式

Speakers 小谷 元子	国際学術会議 (ISC) 次期会長
新福 洋子	広島大学 副学長・教授
岸村 顕広	九州大学 総長補佐・大学院工学研究院 准教授

5. 登壇者リスト

▼ 市民公開講座 創造する未来と科学の可能性 ―さまざまな科学のつなぎ方を創造しよう―

全体コーディネーター	岸村 顕広	九州大学 総長補佐・大学院工学研究院 准教授
	矢原 徹一	福岡市科学館館長、福岡オープンユニバーシティ理事
講師	坂東 麻衣	九州大学工学研究院 准教授
	小林 良彦	大分大学 教育学部 講師
	津田 みどり	九州大学大学院 農学研究院 准教授
	朝廣 和夫	九州大学大学院 芸術工学研究院 准教授
	柴田 智広	九州工業大学大学院 生命体工学研究科 教授
	吉田 香	九州工業大学大学院 生命体工学研究科 准教授
	比良松 道一	九州大学 持続可能な社会のための決断科学センター 准教授
	高田 美子	九州大学大学院 生物資源環境科学府 大学院生
	錢 琨	九州大学 アジア・オセアニア研究教育機構 准教授
	白新田 佳代子	福岡女子大学 国際文理学部 国際教養学科 講師
	平井 康之	九州大学大学院 芸術工学研究院 教授

▼ サイドイベント -高校生・大学生・次世代研究者による英語ディベートワークショップ-

スピーカー	環境 森 章	東京大学先端科学技術研究センター 教授
	VR 南澤 孝太	慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科 教授
	医療 狩野 光伸	岡山大学副理事・学術研究院ヘルスシステム統合科学学域 教授
	国際政治 中野 涼子	金沢大学人間社会学域 教授
オープンサイエンス	Anders Karlsson	Vice President, Global Strategic Networks, Asia Pacific, Elsevier
	SDGs Jinhee Kim	Korean Educational Development Institute
総括コメント	中野 美香	福岡工業大学教養力育成センター 教授
	まとめ 河野 俊行	九州大学 理事・副学長

▼ サイドイベント -若手世代で考える30年後の社会：SFプロトタイプینگワークショップ-

全体コーディネーター	宮本 道人	東京大学大学院 新領域創成科学研究科 客員連携研究員、筑波大学システム情報系研究員
------------	-------	---

▼ サイドイベント -若手研究者と次世代研究者の対話-

Speakers	栗山 斉	九州大学大学院芸術工学研究院未来共生デザイン部門 准教授
	安田 仁奈	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
	和田 元	同志社大学理工学部電気工学科教授
	八並 廉	九州大学大学院法学研究院国際関係法学部門准教授

6. 制作物

1. ホームページ

公開：2021年9月1日～（随時更新）

URL：<http://gya2022.com/>

項目：HOME、開催概要・ご挨拶、Program、Registration、参加者へのご案内、市民公開講座、アート作品、協賛・後援・広告・寄付金情報、リンク

<トップページ>



2. ポスター

アジサイをモチーフにしたロゴを制作し、ポスターを制作しホームページに掲載



3. 記念品

エコバッグを制作し登壇者へ記念品として進呈



4. 立看板

会場前に立看板を制作・設置

